

第3回分科会までの概要

【第1回分科会】

- ・観光名称、地域資源を組み合わせる
- ・いまあるものを評価して利用する。千代保稲荷神社をショーウインドーに。
- ・観光農業
- ・スローフード、食の安全性への関心
- ・海津市のオンリーワン
- ・農業の魅力を伝える

【第2回分科会】

- ・高山、郡上とは違うグリーン・ツーリズム
- ・農業体験は生産者にとって負担が大きい、一般の農家では難しい
- ・グリーン・ツーリズムは、販売型 参加型 滞在型
- ・観光資源をベースに、春夏秋冬の位置付け
- ・市のPR
- ・指導できる人材の確保、育成

【観光アンケートの結果】

- ・県外からの参拝者が8割弱。ほとんどが愛知県（全体の6割強）
- ・国営木曽三川公園、クレール平田にも立寄る人が多い
- ・農産物を目当てにくる参拝客も2割程度ある（目的別で2位回答。1位は参拝。）

【第3回分科会】ワークショップの実施

ワークショップにより抽出された事柄から海津市の農業についての課題や特徴を見つける

<主な意見>

- ・農地が広大で、環境もよく農業も盛んであるが、特産品（特に有名な資源）がない。
- ・集客性のある施設がある（国営木曽三川公園、千代保稲荷神社、道の駅）
- ・後継者不足の問題

<意見から導かれる課題など>

- ・広大な農地を活用したグリーン・ツーリズムの展開ができるのでは？
- ・後継者不足の不安を解消できる方法は？
- ・特産品＝海津ブランドのPR
- ・観光資源との組み立て方

【今後考えていくことは】

- ・市民農園の検討（遊休農地利用、後継者不足問題の解消？）
- ・販売スタイルの工夫（集客力のある資源を活用、新しい販路、新しい販売手法・・・）
- ・上記を成功させるための仕組みづくり